

海、川、ちよだ

都会の砂漠で乾いた心に、水辺は深く染みわたる。

2017

あなたの知らない

東京

見つかるかも

水の都、東京

東京にはいくつもの運河や川が巡っていた。江戸時代には、運河として人々の生活と密着していた。

特に、日本橋は今でも日本の交通網の起点となる場所となっている。

しかし、そんな東京の多くの水路は高速道路や埋め立てにより、都市に暮らす人の目から遠ざかっていった。

脈々と築かれてきた水と人との共生関係。私たちは忘れられた東京の水辺に焦点を合て、現代人と水辺の新しい関係を模索する。



東京湾とふたつの川

東京湾 江戸を支える恵の海

東京湾は古くから江戸の人々と共にあった。

江戸時代には、クジラが湾内を回遊しアシカも多く生息する豊かな海で、そんな海から人は魚や海苔など多くの恵みを得ていた。

時代が進み、東京湾の多くの干潟は埋め立てられ護岸はコンクリートで固められ、海へ注ぎ込む水も人間によって汚された。

さらに時代が進み現在。
人はかつてのように海に歩み寄ることができるのか。



横浜で釣る



横

浜と聞くと洗練されたおしゃれな街というイメージが

強いが、そんな横浜の街で釣りを楽しむことができるのをご存じだろうか。

デートスポットとして有名な港の見える丘公園のほど近くに船釣りを楽しめる港がある。また、釣り道具やエサ、クーラーボックス等はレンタル又は購入が可能な店舗があるため、手ぶらで出向いても問題ない。都会で簡単に釣りを楽しむことができるため、一度足を運んでみてはいかがだろうか。

海の上は風が強い。防寒対策はしっかりと！

築地で食べる



たとえば豊洲に移転しても、築地が江戸の人々の食を支えてきた歴史に変わりのない。



江戸の台所は私の台所

東京湾を肌 で感じるスポット



お台場を歩く

東京 京の水辺と言って、お台場を思い浮かべる人は多いだろう。

丸い球体を配したテレビ局やこの場所に通じるレインボープブリッジは東京のシンボルと言っても過言ではないほど有名だ。多くの外資系企業や大企業が入る高層ビルや大規模展示場、国際会議場もこの場所に存在する。

このように、近代的な建物が多く立地するお台場だが、その歴史は意外にも長い。この場所はずっと大砲の台場として江戸時代に造成された場所なのだ。

そんなお台場は、海が近く水辺に親しむのにうってつけの場所だった。



ふたつの川



ふたつの川 神田川と日本橋川

神田川と日本橋川はどちらも東京の中心、千代田区を流れる一級河川。

そんな神田川、日本橋川はどちらも江戸時代以前から人との関わりがあり、当時から人々と深い交流を築いている。

特に日本橋川流域は水運の便がよかったことから、江戸から近代に至るまで経済・交通・文化の中心として栄えた。

そこは、全国から寄せられる商品が行き交いとても活気がある街だった。



川が育むもの

神田川にかかる聖橋からの眺望。
JR線と地下鉄丸の内線が交差する景色を見ることが
できるため撮り鉄には有名な場所。
また、その複雑な地理からセンター試験の地図判断の
問題に用いられたこともある。

JR御茶ノ水駅聖橋口を出て聖橋を渡った後、下にかかる
道路の歩道がphotoスポット

富岡八幡宮



River 文化

神田川も日本橋川も隅田川も荒川も、東京の川の側は自然や歴史で溢れている。それは昔から人々が川と密接に関わりあってきたからではないだろうか。水が絶えることなく流れる川に人は何を思うのか。



清澄庭園

清澄庭園は江東区にある都立庭園。もともとは豪商の邸宅であったと伝えられ、荒廃した庭園を三菱財閥の創業者である岩崎氏が改修した物。回遊式築山林泉庭園として池を中心に築山や名石が配置されており、東京都指定名勝に指定されている。都会のオアシスとして多くの人に愛されている。

開園時間 9:00～17:00 休演日 年末・年始
入園料 一般150円 65歳以上70円
(小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料)

葛西臨海公園

River

自然

川の周りには自然が多く存在する。都会を貫く神田川や日本橋川の護岸はコンクリートで固められてはいるが、その側道には計画的に植えられた植物が茂り季節の花を咲かせる。荒川の河口には干潟も存在する。

川は自然を育むのである。



荒川の河口にある葛西臨海公園には、水族館や大観覧車の他に人工的に作られた干潟がある。夏のシーズンには多くの人々が裸足で浜辺を歩き、潮干狩りを楽しむ。近年では水質改善の結果、東京都で唯一海水浴ができる場所となった。

「トビハゼちゃん」

交通の要衝

想　　う 日本橋で

船から自動車へ。

交通手段の変化は東京の景色を一変させた。

葛飾北斎の見た景色を取り戻すことはできる

のか。日本橋で古き良き世に想いを馳せる。



船に乗る

どうやら時代がどれだけ変わろうとも、私たちの心の親水性は変わらないらしい。さあ、日頃の憂さは水に流してしまおう。

船は江戸時代から重要な交通手段であった。前述したように東京には多くの水路が張り巡られている。今でこそ交通の主役は車や電車に変わったものの、その心地よさと歴史には多くの人が船に乗ることを迷わない。毎日運行する水上バスや、納涼船からは多くの笑い声が聞こえる。

船上の揺れと風は心地よい！

川を楽しむスポット



魔物が潜む神谷い

浅草を歩く



日本を象徴する観光
名所として国内はも

ちろん、海外の観光客からの
人気も高い。中でも雷門（風
雷神門）は浅草のシンボルの
一つである。

大人にとって垂涎間違いなし
の場所も多くある。特に神谷
バーには浅草伝統の味『電気
ブラン』が宵の口まで華やか
な時間を提供してくれる。



浅草地下街



「ああ、無常。」

水面をみつめる私の姿が

波紋に揺れて、心も揺れる。



水の歩みはとめどなく。

ときに静かに、ときに激しく。

浮いて、沈んで、そして溺れる。

人の世もまた、流れゆく。



OUR DESIRE

終わりに。

冊子『海、川、ちよだ』は高田A4ゼミ東京湾と川班の一年にわたる活動の報告書的な意味もあり、編集の中で一年という時の流れの速さに舌を巻いたのを覚えています。

千代田区には国会議事堂や様々な省庁、多くの企業が集まる日本を代表する自治体の一つです。そして私たちが所属する法政大学もこの千代田区に立地しています。大都市はコンクリートで覆われた無機質的な場所という印象を持つ方も多くいるのではないのでしょうか。しかし、大都市千代田区には皇居やそれを取り囲むお堀、そして神田川など意外にも豊かな自然に囲まれた都市なのです。

千代田区の川に目を向けた時、その川は隅田川や皇居のお堀など他の水辺と繋がりがやがては東京湾に流れ込みます。たとえ無機質的な大都市を流れる川であっても、川は歴史や文化を持ち、現代においても有機的な働きを持っているのです。

東京は成熟したと言われる現代社会の中で、未だに資本や人を引きつけながら成長しています。高度成長期には世の勢いの中で忘れられた都会の水辺ですが、成熟した社会の中でかつての水辺が持っていたオアシスのような意味を取り戻す時がきたのではないのでしょうか。

この冊子を読み、少しでも都会の水辺に興味をもち足を運びきっかけとなれば幸いです。



法政大学 人間環境学部 高田A4ゼミ 東京湾と川班。

私達は普段法政大学で自然環境や生物多様性についての学習を行っています。
毎週のグループワークによるゼミ活動に加え、6つの班から構成される班活動:
サブゼミを学生主導で運営しています。

その中のうちの1つ、”東京湾と川班”に我々は所属しており、この班は法
政大学の所在地である千代田区の水辺や東京湾にまつわる様々な分野について
まとめた冊子作りを通して、東京の水辺の魅力発信をすることを目的に活動し
ています。東京オリンピックの開催や築地市場の移転など、目まぐるしく変化
する東京の水辺に注目が集まっているなか、水辺を取り巻く自然環境について
より興味をもってもらえるように今年度の活動成果をまとめました。

今回の冊子製作は2017年度のメンバー（四年生：石井さん、永野さん 三年
生：吉澤君 二年生：入山君、渡邊さん）で行いました。製作に関してご協力
いただいた方々に深く感謝申し上げます。

2018/10/01

2017年度 東京湾と川班一同



上記QRコード 左 大学HP、右 学部HP

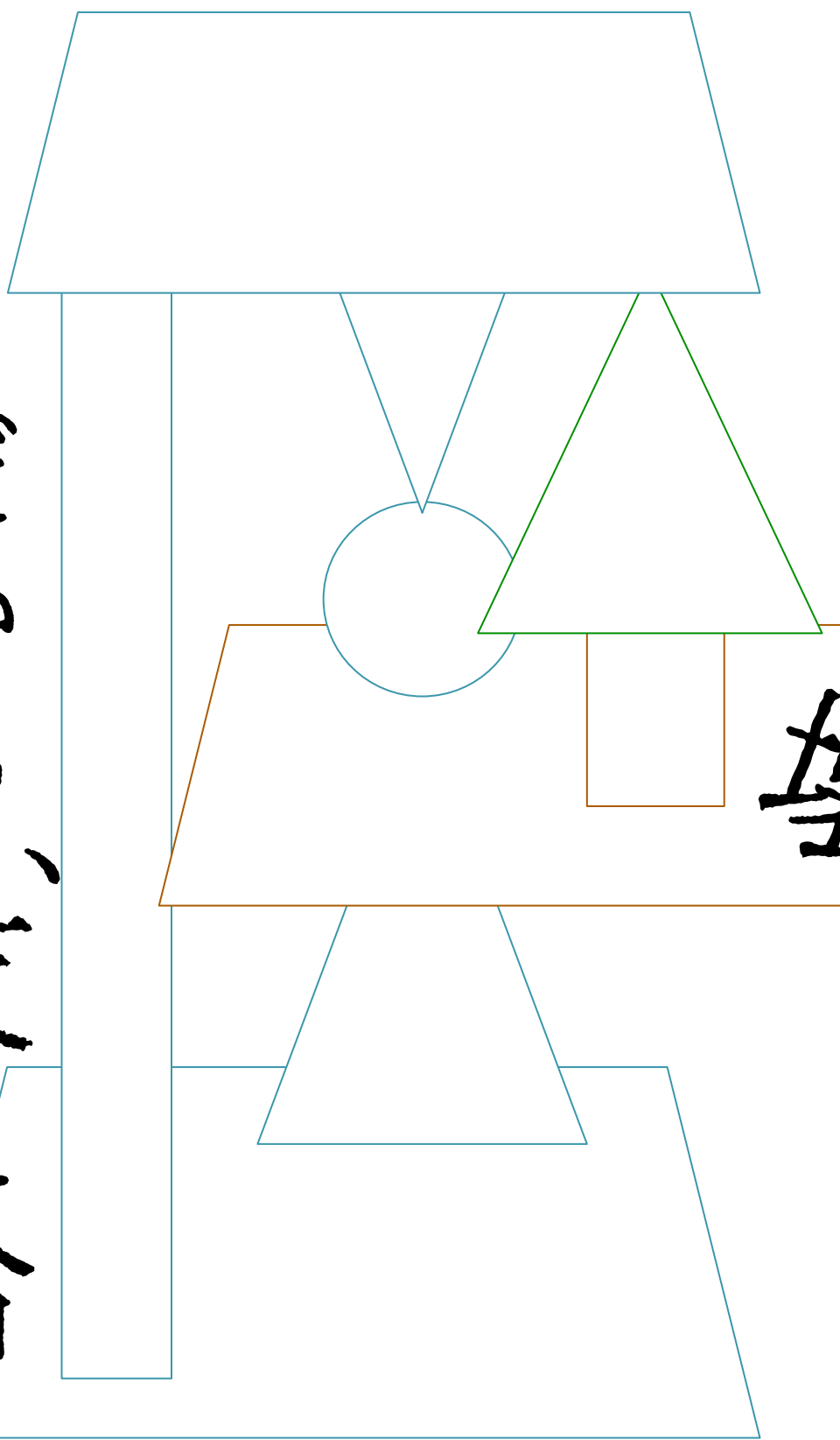
REPORT

自然

も人も

壊れやすい

だから、
支え合う



海、川、ちよだ

都会の砂漠で乾いた心に、水辺は深く染みわたる。

製作 2017年度東京湾と川班